

上智地球環境学会・環境講演会

IPCC第4次報告書と バリ(COP13)からの報告

2008年、京都議定書の第1約束期間に突入。日本は地球温暖化対策についてもう後ずさりはできません。

一方、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は2007年に第4次報告を発表し、長期的な温室効果ガス(GHG)の大幅削減の必要性を強調しました。今、温暖化対策は2013年以降の国際枠組に向けての厳しい国際交渉のスタートをCOP13において切るとともに、IPCCからの科学メッセージを受け長期的な取組の方向に対する国際合意をどのように取り付けるかに焦点が集まっています。本年7月の洞爺湖サミットでは、日本の環境外交力が試されます。

今般の環境講演会は、IPCCのビューローメンバーである平石尹彦氏((財)地球環境戦略研究機関理事)をお招きし、以下のとおり、IPCC第4次報告書のキーポイントを説明いただくとともに、2007年12月にインドネシア・バリにて開催されたCOP13/MOP3の報告をしていただき、改めて長期的な地球的広がりを持った気候変動問題と日本の現在の経済社会の変革の必要性とを結びつけるためのかわりを確認する機会にしたいと思います。

日時:2008年1月19日(土)15:15～17:15

場所:上智大学2号館5階 2-508教室

講師:平石尹彦 (財)地球環境戦略研究機関理事・上級コンサルタント

講師略歴:1968年3月東京大学修士。労働省、公害対策本部を経て、環境庁へ。在ケニア大使館書記官(環境・技術協力) OECD環境局化学品課、環境庁水質保全局水質規制課長等。1989年から1998年まで国連環境計画(UNEP)(1996年環境アセスメント・情報局長)。1999年以降、地球環境戦略研究機関(IGES)理事、上級コンサルタント(非常勤)。2001年から環境省参与。1989年からIPCCインベントリー計画共同議長。2002年から同ビューローメンバー。